

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	鳥越 郁代
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学病院で看護師、助産師としての勤務経験を経たあと、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のテームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了（2002年）。2003年本学看護学部に着任。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

2. 研究業績

①著書・論文

<著書>

- ・ 鳥越郁代「正常な産褥の看護ケア」、村本淳子・高橋真理編『周産期ナーシング』2刷、174-188、198-204、ヌーヴェルヒロカワ、2007年
- ・ 鳥越郁代「第2章 助産師が行うケアの概念、3.女性の意思決定を支えるしくみ」、山本あい子編『助産師基礎教育テキスト第1巻』、助産概論（第1版）、42-54。日本看護協会出版会、2009年

②その他の業績

<報告>

- ・ 鳥越郁代「リエゾン助産師の役割とは？- Elizabeth Garrett Anderson and Obstetrics Hospital (London) での研修を通して-」、『助産雑誌』、第60巻第2号、176-181、2006年
- ・ 鳥越郁代「シンポジウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して」、『助産雑誌』、第63巻第1号、54-58、2009年

<研究ノート>

- ・ 安河内静子、佐藤香代、吉田静、石村美由紀、森純子、鳥越郁代「医療者が『身体感覚活性化マザークラス』を体験した効果—体験録の分析から—」、『福岡県立大学看護学部紀要』第7巻第2号、63-71、2010年3月31日発刊予定

<小冊子作成>

- ・ 鳥越郁代「出産の選択：帝王切開分娩を経験したあなたの出産の選択は？（日本版）」、2008年9月

<学会報告>

- ・ 鳥越郁代「帝王切開術後の分娩様式における女性の意思決定に影響を及ぼす要因—文献レビューからの検討—」、日本母性衛生学会、茨城、2007年
- ・ 鳥越郁代「帝王切開分娩後の次子のお産方法選択における支援：決定援助のための小冊子（日本版）作成と内容の評価」、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 鳥越郁代、古田祐子、石村美由紀、安河内静子、吉田静「助産学生のお産期助産診断過程における現状と課題」、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 鳥越郁代、吉田静、佐藤香代「帝王切開分娩を経験した女性のお産選択の支援に対する意識調査—シンポジウム参加者を対象とした自記式調査から—」、第23回日本助産学会学術集会、東京、2009年
- ・ 佐藤香代、安河内静子、森純子、吉田静、石村美由紀、鳥越郁代、山本有紀子「『身体感覚活性化マザークラス』に参加した母子の栄養学的調査。第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 石村美由紀、佐藤香代、安河内静子、森純子、吉田静、鳥越郁代「リカレント教育における『相互作用』の効果—『身体感覚活性化マザークラス』医療者セミナーの調査から—」、第50回日

本母性衛生学会、神奈川、2009年

- ・ 安河内静子、佐藤香代、石村美由紀、森純子、吉田静、鳥越郁代「医療者がマザークラスを体験する効果—『身体感覚活性化マザークラス』医療者セミナーにおける体験録から—」、第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年
- ・ 森純子、佐藤香代、安河内静子、石村美由紀、吉田静、鳥越郁代「身体感覚活性化マザークラス」医療者向けセミナーにおける「食体験」の分析。第50回日本母性衛生学会、神奈川、2009年

③過去の主要業績

- ・ 鳥越郁代「第10章子どもを産む」、成山文夫、石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』、163-178、北樹出版、2000年
- ・ 鳥越郁代「第6章一対一の助産実践を提供して満足感を得る (Providing one-to-one practice and enjoying it)」翻訳、Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』、鈴木江三子監修『新助産学』、129-149、メディカ出版、2002年

3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究C）、「帝王切開術後の日本人女性の出産様式選択：自己決定支援のためのプログラム開発」、300万円、平成19年度～20年度、研究代表者

5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、女性看護学Ⅱ・2単位・2年・前期、通年、女性看護学実習・2単位・3年・通年、助産診断・技術学・4単位・4年・前期、助産実習・3単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、国際看護論・2単位・4年・前期

<大学院>

助産学特論・2単位・1年・前期、助産学演習・2単位・修士1年・通年、臨床看護学特別研究・8単位・修士2年・通年

8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市健和看護学院講師「母性看護の対象を取り巻く環境」、2009年6月22日
- ・ 北九州市健和看護学院講師「母性看護の歴史的変遷」、2009年6月29日

9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員
- ・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター・研究プロジェクト「身体感覚に焦点を当てた女性の健康ケアモデルの開発と展開に関する研究」研究実施